

地域おこし協力隊 活動記 Vol.91

相馬暮らし一年目なので実感はないのですが、「今年の暑さは異常」という声をよく聞きます。少しはマシになったとはいえまだまだ暑い日が続いています。皆さん、お身体の具合はいかがでしょう？ こんにちは、加賀新一郎隊員です。

アツいといえば、ことのほかアツかったのがやはりねぶた。天候もそうですが参加者の熱意もかなり熱かったように思います。久しぶりのフルスペック開催とあって、愛好会の方々に加え一般参加の皆さんも相当「燃えた」のではないのでしょうか。協力隊も六月十一日の小屋掛け以来、とびとびではありますが製作からお手伝いさせていただきました。

八月二日の審査運行では穂坂修基隊員と二人で前燈籠を持たせていただきました。隊列の先頭で福島直人会長のうしろにつくという大役に緊張しましたが、なんとか市長賞をもらうことができてホッとしました（協力隊の貢献度はほぼないでしょう）。

準備期間から運行までを通して感じたのは、こうしたイベントというのは地域の人々の結束や懇親という点で大きな役

割を果たしているのだな、ということですね。仕事や世代の違いを超えて地域の人々が協力し合い、また飲んだり食ったりして親睦を深めるにはこういったお祭りや行事が最適なのだと思います。だからこそ何年も受け継がれてきたのではないのでしょうか。伝統や文化というのは、つまるところ人々のつながり、結束、価値の共有だと改めて感じました。人口の減少に伴って参加者も年々減っているのは事実ですが、相馬に脈々と受け継がれ



七月三十一日、ねぶた体験ツアーで県外から来られた三名の方に相馬地区を案内いたしました。写真の沢田神明宮をはじめ、エビ養殖センター、りんご農園などをごらんいただきました

てきた伝統・文化を守ることは、すなわち地域を守ることなのかもしれません。

暑かった夏ももうすぐ終わりますが、秋には秋の、冬には冬の相馬ならではの催しがあります。四季折々に相馬の人々が地域を実感する——そんな暮らしがいつまでも続きますように。



左：8月2日の審査運行では、穂坂隊員（右）とともに前燈籠を担当させていただきました。

上：4日の駅前運行では、本ねぶたを誘導。必死の形相は、ややヤラセ気味です（笑）

